

平成 26 年度事業報告

事業の概況

認定された公益事業を継続し、着実に実施した。また、協会運営についても、円滑に実施することが出来た。

当年度に行った事業の概況は次の通りである。

I 公益事業部門

1. 糖類に関する正しい知識の普及・啓発のための事業及び食の安全を基本とした食育推進事業（公益目的事業1）

(A) 料理学校を媒体とした普及・啓発事業及び食育推進事業

最大手料理学校の株式会社ホームメイドクッキングを媒体として全国展開により実施した。

全国直営校 86 教室、指定校（自宅で料理教室開催）80 教室の合計約 63,600 名の生徒に対し、当協会が農学博士と共にセミナーや砂糖工場見学等を通して糖類の正しい知識を理解させた専任講師が、通常の料理教室と食文化講座及び子供向け食育講座等に於て事業を実施した。

イ 東日本直営校 42 教室 約 32,700 名

ロ 西日本直営校 44 教室 約 28,500 名

ハ 指定校 733 教室の内 80 教室 約 2,400 名

上記の普及・啓発活動が各料理教室の生徒に有効に実施されているかを調査、指導のために、全職員が順次全国の料理教室に出張して実地見分した。

(B) 糖類セミナー事業

(1) 各都市の地元ラジオ局やテレビ局と連携を取りながら広く募集告知を行いセミナーを開催。講師（農学博士）と参加者との間で質疑応答や意見交換などに職員も参加して積極的な交流を図り糖類に関する正しい知識の理解を深めた。セミナー終了後にニュース等でもトピックスとして放送、更に啓発効果を高めた。

<開催スケジュール>

イ 5月20日（火） 盛岡市 参加者 116 名 後援岩手放送

ロ 6月17日（火） 熊本市 参加者 112 名 後援熊本放送

ハ 10月21日（火） 宇部市 参加者 100 名 後援山口放送

ニ 11月25日（火） 横浜市 参加者 275 名 後援ニッポン放送

合計 参加者 603 名

(2) 横浜セミナーと連携して、より深く糖類に関する知識の普及・啓発及び食育の啓蒙を図るため、横浜セミナーの提携ラジオ局の(株)ニッポン放送を通じてオリジナル番組を放送し好評を得た。

(C) 全国ボウリング公認競技場協議会との連携による普及・啓発事業

誰もが手軽に楽しめて健康増進に役立つスポーツ部門での高参加率を誇るボウリングを通じて普及・啓発事業を実施した。

4月10日（木）～6月10日（火）全国ボウリング公認競技場協議会（全国の主要ボウリング場オーナーで構成されている）加盟の全国 47 都道府県の 50 ヶ所のボウリング場にて随時職員が見分した。

(参加者約 810,000 名)

各ボウリング場には「砂糖は脳と体に大切なエネルギー」の横断幕及びポスターを掲出、当会刊行の啓発パンフレット配布、JBC〔(公財)全日本ボウリング協会〕ニュースへの啓発広告掲載。

(D) 全日本小学生ドッジボール選手権大会協賛による普及・啓発事業

未来ある子供達の心身の健全育成を目的とした、(一財)日本ドッジボール協会主催、文部科学省、(公財)日本体育協会等の後援の全日本小学生ドッジボール選手権夏季大会に協賛した。

全国 47 都道府県で予選 (861 チーム参加) を行い、各県代表チームが全国大会に出場した。上記のうち予選の 21 県及び全国大会の参加者、その父兄及び観衆に対し、職員が出張して横断幕／ポスター／パンフレットにより普及・啓発事業を実施した。(参加 475 チーム、参加者約 19,460 名)

2. 糖類に関する調査研究活動に対する助成及び糖類に関する公益活動を行う団体への助成事業 (公益目的事業 2)

① 「砂糖の生理的代謝と情緒的、精神的影響に関する研究」

浜松医科大学名誉教授 高田 明和 氏

② 「D-グルコースを出発原料とする光学活性な香料・医薬品中間体の簡便合成」

神戸大学大学院教授 林 昌彦 氏

以上、2 件に対し助成し種々必要な資料を提供した。

3. 糖類に関する情報の収集、整理、提供事業 (公益目的事業 3)

橋本仁農学博士による「糖質の生命科学」を出版し、全国の研究機関、公立図書館、大学図書館、新聞社、雑誌社へ無料頒布した。

4. 特定美術品展示、公開及び官公庁等の美術館への貸出しにより広く国民の文化の発展に寄与する事業 (公益目的事業 4)

(1) 3月26日(水)～6月25日(水)、富士河口湖町立河口湖美術館へ特定美術品 61 点を貸出展示、展覧会「昭和洋画壇のきらめき」を開催した。入場者数 4,078 名

(2) 9月12日(金)～平成 27 年 1 月 7 日(水)、ふくやま美術館、佐倉市立美術館巡回

安井曾太郎作「女と犬」を貸出展示、展覧会「安井曾太郎の世界一人物画を中心に一」を開催した。入場者数ふくやま美術館 9,296 名、佐倉市立美術館 3,214 名

(3) 10月15日(水)～12月10日(水)、城西国際大学水田美術館へ特定美術品 48 点を貸出展示、展覧会「日本近代洋画の輝き」を開催した。入場者数 1,482 名

(4) 10月6日(月)～10日(金)、協会 1 階ロビー、2 階ホワイエ、小ホールに於て、特定美術品約 39 点他 2 点を展示し、一般 89 名、会員 32 名合計 121 名が鑑賞した。

(5) 安井曾太郎作「女と犬」他 6 点の特定美術品の修復を行った。

II 収益事業部門

1. 会館及び施設の管理運営並びに賃貸を行う事業 (収益事業 1)

(1) ㈱ニッポン放送に対して借地権付きの底地等を、第 3 回社員総会 (平成 26 年 6 月 20 日開催) 承認条件通り不動産鑑定士の鑑定額に沿った適切な価額で売却した。

(2) 会館の賃貸業務及びビル管理、維持並びにその経費圧縮に努めて、本事業の費用対効果を高め、こ

れを財資とする公益事業の質的向上に努めた。

(3) 当協会所有ビルの内、テナントへの賃貸部分に対する 10 年目の賃貸料の更新を適切に取り決めた。
また、その業務／管理を遂行するにあたっては、その管理維持費の節減並びに適切なビル修理を実施した。

(4) 1階ロビー、ホール、図書室、娯楽室、談話室他諸施設の更なる有効利用を図った。

Ⅲ 管理部門

1. 講演会の企画、開催

会員等の連帯感、教養を高めて公益事業への更なる協力を促すため、各業界の著名な講師による講演会を次の通り開催した。

イ	平成 26 年 4 月 24 日 (木)	「朝鮮半島情勢一日韓・日朝関係の展望一」 慶應義塾大学名誉教授	小此木政夫 氏
ロ	〃 5 月 29 日 (木)	「この国の行方ー日本のあるべき姿ー」 ジャーナリスト	櫻井よし子 氏
ハ	〃 9 月 26 日 (金)	「今後の日本経済の行方」 経済評論家	藤巻 健史 氏
ニ	〃 10 月 30 日 (木)	「ファインダーを通して見たもの」 フォトジャーナリスト	岡田 明彦 氏
ホ	〃 11 月 20 日 (木)	「若き末裔が明かす万世一系の真実」 作家	竹田 恒泰 氏
ヘ	平成 27 年 2 月 26 日 (木)	「あなたも狙われている！それは詐欺かも？」 弁護士	安富 潔 氏
ト	〃 3 月 24 日 (火)	「日本を知らなさすぎる日本人」 元 文部・農林水産大臣	島村 宣伸 氏

2. 「砂糖関係振興資金」の取扱い業務

独立行政法人農畜産業振興機構からの砂糖関係振興資金を預り金扱いとして、同機構の指示通りその一部を取崩してその関係先へ支払った。平成 26 年 12 月 17 日を以て、預り金残額を、農畜産業振興機構へ返還し預り金業務は終了した。

3. 情報機器による事務の合理化等により、適切な運営、管理を行うと共に引き続き経費の削減、及び余剰資金に対しては、元本保証を前提としての高率な運用益を創出した。

協会運営に関する事項

1. 総 会

平成 26 年 6 月 20 日午前 11 時より、当協会会議場に於いて、第 3 回社員総会を開催（出席正会員 361 名）、次の議案を付議した。

第 1 号議案 平成 25 年度事業報告並びに平成 25 年度貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書、財産目録及び附属明細書（砂糖関係振興資金預り金収支報告書）承認の件
原案の通り承認議決した。

第2号議案 株式会社ニッポン放送に対する底地等の売却の可否について理事会に一任する件
原案の通り承認議決した。

報告事項 平成26年度事業計画書並びに収支予算書（正味財産増減予算書）、資金調達及び設備投資の見込みについて、及び附属明細書（砂糖関係振興資金預り金収支計画書）について説明があった。

2. 理事会

当期中11回開催され、総会提出議案のほか、「公益法人」の事業運営に関する諸案件を始めとする当協会の主要業務につき審議、決定した。

3. 評議員会

当期中1回開催され、総会提出議案を審議したほか、重要な会務について報告を受けた。

4. 専門委員会

(1) 総合企画委員会（委員長 高柳雄一氏ほか5名）

当期中1回開催され、会員資格の取扱等について審議し、理事長に答申した。

(2) 会員選考委員会（委員長 太田正孝氏ほか5名）

当期中3回開催され、正会員、賛助会員入会申込者を選考し、理事長に答申した。

(3) 公益委員会〔委員長 岩崎充利氏ほか8名（うち2名社外特別委員）〕

当期中2回開催され、平成27年度の公益事業計画、公益事業予算等を審議し、理事長に答申した。

(4) 行事委員会（委員長 大塚嘉隆氏ほか6名）

当期中3回開催され、協会諸行事の計画等を審議し、理事長に答申した。

(5) 美術品委員会〔委員長 松久直史氏ほか7名（うち2名社外特別委員）〕

当期中2回開催され、特定美術品の展示、公開、官公庁等の美術館への貸出し等について審議し、理事長に答申した。

5. 登記及び監督官庁への届出事項等

(1) 平成26年6月27日、平成25年4月1日～平成26年3月31日の事業報告等に関する提出書を内閣総理大臣宛提出した。

(2) 平成27年3月27日、平成27年度事業計画書、収支予算書（正味財産増減予算書）、資金調達及び設備投資の見込についてを内閣総理大臣宛提出した。

6. 会員入退会者数（平成26年4月1日～27年3月31日まで）

入会 個人正会員 12名

個人賛助会員 1名

退会 個人正会員 35名（うち死亡15名）

個人賛助会員 1名

7. 会員数（平成27年3月31日現在）

法人正会員 16社（前年3月末 16社）

個人正会員 465名（ ” 488名）

” 賛助会員 39名（ ” 39名）

会員総数 520名（ ” 543名）

以上